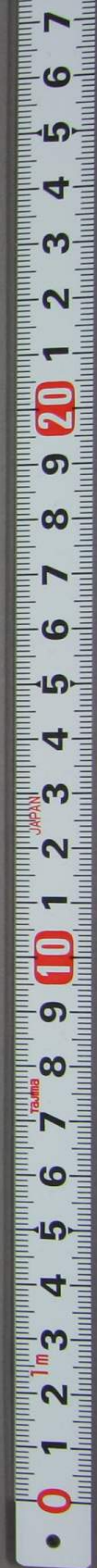


4134



114
A 4134
1



恐懼再拝謹テ大隈参議公閣下ニ言ス

大隈侯爵邸寄贈
天正十一年四月

朝廷曩ニ教部省ヲ置カレ衆教ヲ統理シ布教ニ黽勉セ
シノ庶民ヲシテ谷々趣向ニ惑ヒナカラシムルノ恩慮不堪感
仰拜戴ノ至ニ條然ル處方今芝増上寺佛殿ヲ改メテ大
教院トシ之ニ祭ルニ四神ヲ以テシ注連ヲ飾リ華表ヲ
起シ幣帛ヲ捧ケ祝詞ヲ奏シ二百餘年傳燈ノ佛刹
忽然変シテ一大神祠トナル豈不恐懼乎然而神官僧侶
ヲイハス湊集出仕同ク神式ヲ行ヒ專ラ神教ヲ説カシム
巡項説軌少シク変シテ僧侶ニ猶自教ヲ説クモ妨ナシト

ス於是乎一場ノ説神ヲ説キ佛ヲ説キ念佛ヲ説キ陀
羅尼ヲ説クト是レ宗ニ宛然タル一大滑稽場ニシテ竟モ
布教ノ場ニ似サルコトハ其場内外ノ景況ニテモ可知量一
大驚倒ノ至ナラスヤ近聞諸府縣ノ間各皆中教院ヲ置カ
ントス而ノ穌裁亦大教院ニ效ハシム於是乎所在ノ僧侶其
苦情ヲ愁訴スル者アリ或ハ 朝威ヲ畏ミテ唯々スル者
アリ貧道苟モ教門ニ從事ス區々ノ心聊教法ヲ以テ教國ノ増増埃
ニ擬セントス而方今見聞所ノ如キニ至リテハ 教法ノ玩物ニ
屬スル智者アリトイヘトモ 饑夕救濟スヘカラサントス亦莫ソ
民心維持ノ效ヲ望ミヤ 貧道 憂悶煩熱 不忍默止敢不顧忌憚

聊教省教院ノ失穌ヲ上言セン凡ソ教法ノ區別アル者ニ混
合スヘカラス而之ヲ一所一時ニ會説セシムル民不惑ニ疑ヲ
懷ク論ヲ待サル也況ヤ大中小一物ノ本枝也大教院已
ニ四神ヲ別祭セハ中教院モ亦番セサルヲ得ス大中已ニ然レ
ハ小教院モ亦然ラサルヲ得ス果シテ然ラバ現今ノ社寺ヲ以
小教院トスト云ハ一時暫用ノ徒名ニシテ其宗ハ他日今ノ社
寺ヲ愛シテ皆四神ヲ合祭スル者ニ改ルコト猶今日大教院
ノ佛寺ヲ愛シテ 神祠トナスカバクナラン 若小教院ハ從前
社寺ノ穌裁ヲ以テ可也トシ 独リ大中教院ノ三ハ四神ヲ
別祭セサルヲ得ストセハ是レ條理ノ整ハサル 猿頭蛇尾ノ

怪鳥教院ト云ヘシ苟モ大中小其條理ヲ整ントセハ大ヲ以テ小ヲ準ナセンカ小ヲ以テ大ヲ準ナセンカ此ニ外異途アルコトナシ然而所謂大ハ一也新創スルトコロ也小ハ數十萬也固有スル所也矣ソノ新創スル者ニ準シテ數十萬ノ固有ヲ改ルコトヲセンヤ 貪道 恐懼謹案スルニ従前祠官ノ職祖宗ノ祭祀ヲ司ルニアルノミ未タ其教ヲ創シテ布宣スル者アルヲ聞カズ是レ古昔儒佛ニ教録用ラレタルニヘシニシテ當時 朝廷先ツ自ラ之ヲ用ヒ以テ象庶ニ布宣セシム彼ノ方今外教ノ邊民ヲ誘招シ漸ク内地ニ彌滿セシナントスルカ如キ者ニアラス其古昔神教ナキ瞭然可見

然而方今新ニ其教ヲ創セラルトキハ其教院ヲ新創スルニ亦理ナキニ非ス只佛教ニ於テハ諸宗各々教院アリテ大中小亦全備ニシテ翻ケス矣ソ坊ク之ヲ新創センヤ 所謂大院ハ本山也中院ハ各縣從前ノ録所齋頭也小院ハ即所在ノ諸寺也若夫レ學校ハ父母曰ニ普通ノ小中学校ヲ結構セラル後來ノ子弟宜ク順序ニ之ヲ通字ニ而後各宗專門ノ教字ニ入ルハシ教字固リ同シカラサレハ矣ソ亦タ混同ス一ケシヤ凡ソ二道諸宗ノ一準ナラサルハ戸堂奥自ラ別也造化ヲ説クアリ心性ヲ説クアリ自カヲ勵ムアリ他カヲ尊ムアリ諸佛ニ并事スルアリ一佛ヲ尊念スルアリ之ヲ混シテ説聽ヲ同シフセシメハ

説者已ニ左指右導ス聽者莫ソ東奔西走セサランヤ彼ノ
歐洲文明ノ境ニ於ケルモ宗派ノ區別數十有テ各寺院ヲ
異ニスルハ其所説所行固リ一準ナラサルカ為ナ也新舊兩
教ノ獄令モ猶區別スルモノ其因人ヲ説諭スルノ教不同カ
故也同ク耶蘇ヲ尊フ者ニシテ猶然リ況ヤ本邦ニ道諸宗
ノ教跡宗祖ノ區別スル者ヲヤ假令其説相反對スルモ扶
政正俗ノ用ヲ播ニ三章ノ旨趣ニ戻ラスニ可ナラン若シ三章
ヲ教跡ト誤認シ各宗ノ區別ヲ一ニセントセハ是宗教ヲ廢滅ス
ル者ニシテ民向ニ由テカ安身立命セン是然ラハ各宗源用ノ
名有テ宗ハ各宗廢滅ノ極也其僧侶ヲ取テ教職ニ任スルモ

其人ヲ用テ其教ヲ用ルニ一派ル也彼ノ祠官僧侶ノ外大夫
爲以下戸長副長尋常奉士旗平民男廿或ハ誹諧者流ノ
徒ニ至ル迄之ヲ取テ教職ニ任スル者ニ至リテハ是レ何等ノ道ヲ修シ
何等ノ教ヲ學ヒタル者ソ祭祀ノ職ニ當ルハ可也布教ノ任ニ當ラ
シムル莫ソ毫モ教養ナキ者ヲ用ヒンヤア、字内廣シトイヘト
モ如此ノ教師アルヲ見ス侮ヲ萬國ニ取ルノ甚シキ 貧道 宗ニ
ノ間ニ任スルヲ耻ツ或ハ云彼レ本ト祠官ニ派ストイハレ皆平生
神教篤志ノ者也教職ニ任スルモ妨ナシト果ノ然ラハ教養ノ施
設尙ソ偏頗ノ甚シキ已ニ佛教篤志ノ人右テ之ヲ教職ニ任
セバコトヲ請ヘトモ僧侶ニ派サレハ之ヲ許ヤス猶リ神教ニ至テ

之ヲ許ス豈之ヲ偏頗ナラストイフヘケンヤ且夫神佛判然ニ
皇政維新ノ詔裁也誰レカ之ヲ違奉セサランヤ然ルニ今神官僧
侶ヲシテ曰ク神教ニ説教セシル者ハ知ラス混淆ノ古ニ復スト
云々若祭祀ノ式ニタニ神礼ヲ用ヒハ神前ニ佛教ヲ説リモ妨ナシ
トセハ知ラス神ハ佛ヲ喜ヒホフ者トスルヤ將夕佛ヲ否レ若トスル
ヤ佛ヲ否レ者ノ前ニシテ佛ヲ説カシハ不敬之ヨリ甚キハナシ
佛ヲ喜フ者ニ事ヘテ佛ヲ信セサル不信之ヨリ大ナルハナシ金蓮
未タ神意ノ所在ヲ知ラサル也夫神ハ不測ニ名リ允慮ヲ以
テ説ク一カラス然而命令好惡皆私意ヲ以テ之ヲ論ス畢竟
一是ノ教範ナキ用捨隨意ニ出ル所以也況ヤ後古史ヲ以

テ教本トシ古ヲ是トシ今ヲ非トシ内ヲ自尊シ外ヲ侮蔑スルニ
化ノ害最甚シ夫古史ノ尊フヘキハ攻古ノ徵典ニシテ内ヲ知テ而
後外ニ及フハ學問ノ階序也教ハ然ラス古賢先聖其德象
人ニ超ヘ其仁萬人ニ被ル者有テ自ラ神人ノ句ニ立テ若ニ趣
向ニ道ヲ指シ人ヲシテ心思ヲ正フシ死生ヲ安セシムルヲイフトキハ
何ソ必スシモ古史ヲ要トセン若必ス爾國ノ原史皇家ノ所本ヲ
ルヲ以テ強テ之ヲ信セシナントスルニ即是 朝威ヲ挾ミテ人心ヲ
制スル者ニテ他日 皇室ノ患ヲナス恐クハ端ヲ此ニ覓セン向ト
ナレハ大古ノ漢然タル固リ悉ク信ヲ取り難シ然而強テ之
ヲ信セシナントスルモ人各信スル所アルトキハニ矣ソバカ固信

スル所ヲ抛ケテ其信セサル者ニ從フヘケンヤ假令一旦畏服
カ從スルモ懣懣結ノ所疑必ス時アリテ發セサルヲ得ス事此ニ
至リテハ其曾テ人ヲ利スルノ力愈大ナル者ハ害ヲナスモ亦益
甚ニ夫レ猶水火ノ利害用ヲ異ニスルカ如キ也歐洲昔日ノ大
乱皆已レテ准ナトシ他ヲ誣ルニ出其教戰ノ起ル者ハ信教ノ自
由ヲ與ルノ日ニ出テスニ至ル而政體ノ変エルニ至ルハ多ク威權
ヲ專ラシシ政下ニ發ス不可深察者予費内偏氏曰國王ノ權
ハ人心天良ノ擁ニ及ハス國王ノ力ハ人心信仰ノ力ニ敵セス其務ソ
人民ヲ保護シ各其所信ノ教ニ從ハシムルヲ要ス苟モ私ノ威權
ヲ以テ人民ノ信ヲ奪テ強テ己ニ從ハシメントスルハ教ヲ以

テ奴隷視スル者也況ヤ人民確定ノ信ナクシテ輒ク國王ノ權力ニ移
シ奪ル者皆偽善者ニシテ惡ムヘキノ小人也トソノ語全ク仲尼ノ
三軍可奪帥也匹夫不可奪志也ノ意ニ合ス亦至論トイフワ
一ニ夫朝廷ノ令スル所ハ萬民遵守ノ標準ニシテ一民モ之ニ從
ハサルヲ得ス存サル則チ刑罰討以テ之ヲ待ツ者ナラン今朝廷自
ラ教權ヲ操テ之ヲ政令ニ混用セハ其信從セサル者ハ將タ何ヲ
律ヲ以テカ之ヲ待タン其政教ノ混スヘカラサル復々ニ待タ
サル也凡ソ宗教ノ要心情ヲ正シ死生ニ安セシムルニアリ而
ム此ニ若ハ瓦理格物ノ得テ測ルヘカラサル所ニシテ人智ノ
知リ得ヘキ所ニ非ス古昔不可思議天尊陰ニ此德ヲ藏シ

巧ニ人同ニ應現シ共知ル一カラサルノ心性ヲ説キソノ測ル一カ
ラサルノ生死ヲ^指示ス此教一タヒ出ラハ心情覺醒ノ生死圖
明カ^{シテ}我ヲ照鑑^シ我ヲ悲愛スルノ微妙淨法^ニ身察相為
物ノ体アルヲ知り其心ヲ戒慎シ其行ヲ恐懼スルニ至ル是レ教
ノ刑罰ノ及ハサル所律令ノ至ラサル所ヲ勸懲シテ百政ノ根
本萬世ノ定礎トナル所以也此他隱諛ヲ勸ノ貪慾ヲ長セシ
ノ荒唐激越ヲ説ヒテ愚民ヲ慌惑セシレルカ此キハ印度支
那ヲイハス泰西皇朝ヲ云ハス概シテ以テ真教トナス一カラ
サレハ之ヲ排テスルモ猶可也雖然民ノ慣習常ヲナシ智識未ク
俄ニ進マサレハ須臾ク民好ニ從ハシムサルヲ得ス教家亦此佳

境ニ達スル者少シトイハレ區々ノ心願クハ積弊ヲ一掃シテ教
本ニ進歩セシナンコトヲ期ス曩ニ萬里遠遊ノ際幸ニ宇内
ノ諸教ヲ淺探シ畧其大意ヲ領スルコトヲ得而ノ其利害
得失モ亦頗ル感スル所アリア、今日何ノ日ソ苟モ明聖上
ニアリ莫ソ政教ヲ正フセサランヤ而政ノ一門ハ滿朝英賢ノ曾
肝^{スル}取ル所ニシテ教ノ一門ハ寡ニ^貪等ノ任トスル所也雖
然上ニ啓聞スル所ノ如キコトアルニ至リテハ亦何ニ由テカ志ス
所ヲ盡サン中顧ルニ僧侶固リ暗昧ナリトイハトモ莫ソ甘シ
テ此ヲナサンヤ蓋シ勢ノ止レハカラサル漸ク從テ此ニ至レル
歟而ノ之カ勢ヲ長セシル者ハ教部ノ施設ニ在テ愚盲ヲ嚇動

シテ之ヲ漸誘セシ者也其廢廢之甚キ一ハ以テ回教トシ一ハ以テ
回教ニ派ストニア、宣布已ニ午有餘歲民ノ由テ安立スルモ亦
久シ何ソ俄カニ之ヲ外視センヤ且專ラ教部ノ准允ヲ得テ之
ヲ刊行スル教義新聞ハ冊々種々種々可ヲ請クト云而ナ無根
ノ誹謗モ之ヲ制セス排毀ノ惡論モ之ヲ公刊セシム一照扶護
ノ情無キカ如シ豈諸教ヲ通轄スルノ者体ナラシヤ是レ果ニ
朝上日ニ出ルトキハ抑揚廢貶特ニ 朝廷好惡ノ施設ニ在
テ通塞興廢未タ教法得失ノ自餘ヨリセス果然ラハ教徒象
ソ怨ヲ 朝廷ニ校ハスシテ過ヲ已レニ求ナンヤ其上下情
隔リ廻向相反スル者全ク 朝旨ヲ誤認スルニ出ルトイ

一トモ亦其ク謂ナキニ派ル也仰願ハ 朝廷公正其間ニ偏頗
ナク其合ス一カラサル者ヲ強合セス其愛ス一カラサル者ヲ誣
愛セス夫ヲシテ各獨立セシメ滿邦ノ諸教若ヲシテ悉ク
朝恩ニ沐浴セシメ一民ノ恩化ニ無拜踏スルヤ三章ノ旨趣微セ
スシテ案ヲ種スニ至ラン復道 案ニ身ヲ教門ニ奉ス死生願ク
ハ此教ヲシテ時運ト共ニ新ニシ人智日ニ進テ真理日ニ顯シ心
中一定ノ所期有テ毫モ死生ニ惑ナカラシメ言行ヲ忠案ニ
ニ職務ヲ黽勉シ以テ維新ノ政化ヲ裨ケ 皇恩ノ萬一
ニ報ハシナントス區々心不堪黙止卷録ヲ甘受シテ敢テ激
切ヲ上言ス案ニ恐懼ノ至也願ルニ書言ヲ盡サレノミナラス

言却々意ヲ傷フアラシ冀クニ公服清閑ノ時ヲ待テ親ク
賢聽ヲ汙サシコトヲ誓旨再拜謹言

明治六年十月五日

島地黙雷拜

上

大隈参議公閣下

414
A 4134
2

建議

山口縣管轄周防國佐波郡德地

真宗妙誓寺住職臣寫地黙雷 謹白

方今 朝政維新百弊芟除ノ隆運ニ際シ凡ソ
朝旨ノ取在ヲ知リ機運ノ取嚮ヲ察スル者誰カ
因襲ヲ脱却シ文明ニ進趣スルヲ欲セサル者
アラシヤ然ト雖モ世猶人智昏昧習情固着シテ
未タ 朝旨機運ノ如何ヲ知ラサル者多キニ至
テハ其頑篤ヲ鞭笞シ其汙俗ヲ洗滌シ彼ノ文明
諸州ト相驅馳セント欲スル豈一大至難事ナラサ
ラシヤ蓋官ノ文明ヲ求ムルニ急ナル者ハ彼此

ノ文質ヲ比較シ其愈後レ愈下ラシク恐ルルハ
ナリ而シテ氏ノ因襲ヲ脱スルニ吝ナル者ハ内
外ノ優劣ヲ知ラス愈新ニシテ愈疑フニ由ル也
上下智愚ノ相反スル固ヨリ深ク怪ムニ足ラス
ト雖モ其相距ル殆ト秦越肥瘠ノ如キニ至テハ
亦少シク緩急度ヲ計リ措置情ヲ斟マツル可カ
ラス夫方今本邦上下ノ位置タル氏ハ以テ官ニ
依ルヘリ官ハ以テ氏ヲ安スヘキヲ義務ノ度ト
ナス猶現童ノ父母ニ於ケルカ如シ然ルニ父母モ
シ現ノ年齒識度ヲ以テセズ之レニ責ムルニ大

人ノ事ヲ以テセハ童ニ其事ノ成ラサルノミナ
ラス眩暈昏忙豈才識ヲ長スルニ違アランヤ然
ハ則チ之ヲ安シ之ヲ導ク者カメヲ我ニ急ニシ
テ責ム彼レニ緩セサル可カラス若官其カムル
恥ヲ急ニセズンハ何時カ文運ヲ促サンヤ之ヲ
棄テ研サハル者ト謂フ若氏ニ求ムル恥ヲ緩セ
ズンハ文ヲ求テ却テ野ヲ加フ恥謂助長シテ苟
ヲ擾リニ異ナラサル也果メ然ハ官ノ急ナル可
キ何ソヤ政治公明ナルノミ教育懇切ナルノミ
而メ氏ニ求ムルヤ其心ニ躰會スルヲ先トシテ

其形ニ卷驗スルヲ後トス可シ苟リモ其^先後スル
所ヲ失フ時ハ偶其行ハル、者ハ輕浮ノ外飾ノ
ニ真文化ニ遠サカル益甚シカラシ蓋シ其心ニ
躰會セシムルノ方何ソヤ曰ク学也曰ク教ナリ
而シテ教学ノ設ケ今已ニ立ツ亦遺策ナキニ似
タリ然リト雖トモ教ノ未タ其制ヲ得サル学ノ
既ニ其緒ニ著ク者ト同シカラサルニ至テハ臣
籍ニ之ヲ憂フ請フ少シク之ヲ南セン史 朝廷
教部省ヲ置キ神佛二道ヲ并用シ祠宮僧侶ヲ統
轄シ教則ヲ立テ、布教ヲ勉メシム其事頗ル善

美ヲ盡セルカ如リニシテ其實却テ弊害ヲ生ス
ル者アリ蓋シ施設曖昧ニシテ條理ナリ公私混
雜シテ偏頗アルニ由ル也抑立者ノ元旨民ヲシ
テ苟明ニ進歩セシムルニアル歟將タ各宗ノ教
法ヲ興隆スルニ在歟若シ罔明ニ進歩セシムル
ヲ期セハ亘ク内外ニ通シ政旨ヲ明カニシ以テ
民ヲ諭スニ足ル者ヲ撰テ之ヲ任スヘシ何リ神
佛二道ノ徒ニ局ラシヤ若シ宗教興盛ヲ期セハ
亘ク其弊ヲ芟深スルヲカムヘシ豈偏頗ヲ二道ノ
間ニ用エ可ケンヤ然ニ今盡ク之ニ及スル者ハ

果シテ立省ノ元首此ニニ非ルヲ知ル然ラハ則
何ヲカ元首トナス曰一神道宗ヲ興シテ以テ外
教ヲ防キ以テ國躰ヲ維持セントスルニ在リ然
而メ世ノ不知者或ハ以テ文明ヲ勸奨スルニ
在ト或ハ以テ各宗ヲ保護スルニ在リト或ハ
以テ為リ真ニ興神ノ元首アルカ為メ也ト所見各
異ニシテ方嚮自霄壤也臣恐懼切ニ疑フ是レ
廟堂明賢畜議ノ良制ニ係ルト雖凡少シリ遠漏
アルニ非スニハ必ス施設宜キヲ失スル所アル
歟凡ソ宗教ノ民ノ歸嚮ニ任スルハ文明諸國ノ

通範ニシテ其心ニ感スル者ハ之ヲ禁シ得ヘカ
ラヌ其教ニ信テキ者ハ亦之ヲ誣ヒ施ス可カラ
ス蓋シ教派自ラ別テリト雖モ其政ヲ害ヤス其
國ヲ乱ラヌ忠信善良ニ歸着ヤハ何ソ敢テ之ヲ制
セシヤ彼國躰維持ニ至テハ固ヨリ鼎彝ノ閑ス
ル所萬世ノ鴻制ニシテ上下誰カ之レヲ愛護セ
サランヤ然リト雖モ是レカ基ヲ固スルハ最モ
廟堂明賢ノ擔任ニ在テ要 朝政公明ニシテ億
兆皞々其處ヲ偶ルニ在リ奚ノ區々ノ家説ヲ恃
ミテ維持ノ重ヲ托ス可シヤ夫レ今日ノ愚民固

ヨリ國躰ノ安危ニ関セス而シテ他日ノ民辱リ
ンソ今日ノ愚民ヲ以テ之ヲ期スルヲ得ンヤ然
レハ則チ國躰ニ憂フル所ハ他日ノ民ニ在リ豈
今日區々ノ説ノ能ク之ヲ轟解スル所ナランヤ
亦其時ニ取テ失テニ非スヤ是廟筭少シク遺漏
アテント謂テ取テ以テナリ若實ニ國躰維持ノ効獨
リ神道宗ヲ興スニ在リトヤハ何ノ殊ニ佛者ヲ
混用スルヲセシム苟モ佛者ヲ用ヒハ其教義ヲ
弘傳スル亦當然ナリ然ルニ之ヲ用テ神道宗ヲ
興サントス猶ホ木ニ縁テ魚ヲ求ムルカ如シ而

シテ他ノ各宗保護ノ為メニスル所ト誤認スル
モ亦謂レテキニ非レ也而メ勢ノ止可カラサル
省モ亦陽ニ之ヲ保護スト云ハサルヲ得ス而シ
テ其實ノ相友スル限ニ益減減ノ計ヲ逞ス諂詐
百端官自ラ欺誑ヲ示ス是虫々ノ民益朝旨ヲ
疑惑シ矇昧ノ僧愈新政ヲ變疾スル所以ニシテ
事一世ヲ籠絡スル者ノ為ス所ニ似テ頗ル汚世
宰民ノ政化ニ辜負スルカ如シ夫甲乙並ヘ用テ
同ク朝政ヲ資ケシハ只其功如何ヲ視テ足ル
可シ若シ好悪愛憎ヲ以テ之レヲ視ハ初メヨリ

之ニ托セサルニ如カス此ニ人アリ我之ヲ嫌惡
シ而シテ之ヲ用テ我事ヲ為サシメントス彼レ
何ソ可服我カ用ヲナサンヤ嗚呼阿諛曲從ノ徒
ハ猶ホ從フヘシ方正實直ノ人ソレ誰レカ之ニ
彈指セサランヤ凡ソ人情世俗ノ浮薄ニ屬スル
日ニ一日ヨリモ甚シトス今日ニシテ之ヲ良實
ニ導カスンハ他日恐クハ廢止スル所ヲ知ラサ
ルニ至ラン而メ之ヲ教ル者ニシテ猶如此臣只
ソノ益得薄ニ是リテ見ル其政治ニ補ナキ亦々
知ヘシ是施設宜キヲ得サル所アリト云フ所以

ナリ夫政令ハ人民必遵ノ標準ニシテ律以テ之
ヲ施行ス而令宗教ヲ以テ政治ニ混シ官威ヲ以
テ之ヲ行ハントスルモ其不信ノ徒アル何ノ律
ヲ以テカ之ヲ處置セン政教ノ混ス可カラサル
亦タ明カナラスヤ若シ然テハ宗教ノ弊習多キ
之ヲ其為ス所ニ任シテ可ナランヤ曰リ宗教ノ
弊タル元ヨリ官ノ左右ス可キニ非ス然レ凡其
規其則モシ政ニ害アル者ハ官亦之ヲ正サ、ル
ヲ得ス而シテ之ヲ正スモ亦其宗徒ヲシテ自ラ
之ヲ正サシムヘシ凡ソ他ヲ教ヘントスル者皆ツ

自ラ正サ、ル可カラズ我未タ自ラ正ス下能ハ
スシテ而メ莫リ能ク他ヲ教ユル下得ン嗚呼
今ノ祠官僧侶ノ蒙昧ナル豈尋常愚民ト殊別ア
ラシヤ其之ヲ責ムル急ナル可カラサル亦タ一
也果ナ然ラハ民ヲ教ヘ文化ニ唱導スル宗教差
弊ノ後ヲ待ン乎曰ク然ラス臣以為ク民ヲ文化
ニ導キ其權義ヲ知ラシムルカ如キ何ソ必スシ
モ神佛巫僧ニ局ラシヤ事ニ通シ理ニ明ラカニ
シテ民ノ方嚮ヲ定メシムルニ足ラハ何人ヲ用
ユルモ亦妨ケナカルヘシ是レ官ノ自ラ用ユル

取ナレハ謂ユル政教一致ナル者ニシテ生ニ始
メテ死ニ終リ彼ノ靈魂ノ去来幽冥ノ福福生前
身後ニ跨説スル宗門教師ト異ナル者之ヲ各ケ
テ治教ト謂文化已ニ普ク學術已ニ盛ニシテ宗
教去テ教師賢ナル時ニ至テハ之ヲ置カサルモ
亦可也民智未タ進マズ朝旨未タ達セズ而シテ
官文明ヲ求ムルニ急ニシテ宗教師猶ホ未タ陋
習ヲ脱セサルノ時ニ當テハ亦自ラ之ヲ置サル
ヲ得ズ而メ之ヲ置クト置カサルハ一ニ官ノ適
宜ニ任ス宗教ノ興廢存亡宗徒ニ一任シテ官之

レニ關係セサルト同シカラサル也抑本邦神道
ノ如キ已ニ政教一致ノ説アル片ハ是レ上世ノ
政迹ヲ尊稱スルノニ其宗教ニ非サルハ亦々論
ヲ待タス蓋シ古今沿革一ナラスト雖凡皆立極
無統ノ經緯ニ基キ經述擴充ノ廟謨ニ由テサル
ハナシ之ヲ古ニ溯稱シテ維神ノ道ト云ヒ今ニ
直稱シテ皇道ト云フノニ其名暫ク別アリト
雖凡同リコレ濟世安民ノ大政ヲ指ス也既ニ然
レハ儒佛漢洋ヲ資用スルモ時ニ適シテ悖ラス
ンハ即チ祖詔ニ報對スルノ明政ナリ豈獨リ之

ヲ神道ニ非スト謂ハンヤ若シ漢洋ノ学政ヲ利
スレハ即是神道ヲ利スル也若シ儒佛ノ教政ヲ
害セハ即是神道ヲ害スル也苟クモ政ヲ損益ス
ルノ外更ニ損益ス可キノ神道アルナキ時ハ
神道者流ノ古ヲ憂トシ今ヲ非トシ内ヲ自尊シ
テ外ヲ輕侮シテ朝威ヲ假テ不服ヲ誣ヒ文明ヲ
妨ケ頑陋ヲ執スルカ如キ亦是皇道ヲ害スル者
ニシテ豈之ヲ神道ヲ扶クト謂フ可ケンヤ凡ソ
維神ヲ政外ニ求メ神道ヲ以テ宗門ト誤認スル
者ハ本邦未嘗有ノ私見ニシテ諸教ヲ廢シ百制

ヲ滅シ上古草昧ニ復スルニ非サレハ以テ神道
ヲ言フ可カラサルニ至ル况ヤ國跡ノ名ヲ假テ
歸嚮ヲ誣ユル者ノ如キハ他日 皇室ノ大患ヲ
釀シ其害終ニ救ク可カラサルニ至ラン是レ臣
恐懼ニ堪エサル所ナリ仰キ冀クハ 朝廷速
カニ其弊ノ所在ヲ洞察シ治教序教ノ別ヲ判然
タラシメ官自ラ民ニ施行スルヲ治教トテシ之
ニ従事スルヲ教職トシ其教ル所ハ幽畧眞理ニ
涉ラズ專ラ 朝旨ヲ下達シ時機ヲ知ラシメ学
校撫育ト旨ヲ同フセシメ正身勉業文質ノ人々

ルニ背カサルヲ要トセシム可シ若シ夫宗教ハ
官自ラ施行スル所ニ非サレハ或ハ佛或神之ヲ
人氏ノ機縁ニ一任シ之ヲ揚ケヌ之ヲ抑セス只
教師ノ勤惰ト教義ノ眞妄トニ自任セシムヘシ
昔人言ヘルヲ了リ眞理有ル者ハ制スト雖モ必
ズ滅セス眞理ナキ者ハ制セサレトモ必ズ滅ス
ト蓋シ文運已ニ闕明ニ属ス宣ニ久シク舊顔ヲ
存センヤ而シテ其存不存ト自ラ人文識度ノ等
級ヲトスルニ足レリ嗚呼今日ノ民何ノ民ソ未
タ文化ノ何者タルヲ知ラス存シテ執政ニ危疑

シ改正ニ恐怖ス之ヲ時勢ヲ知ラシト 朝旨ヲ
解セシム尚以テ為シ易カラストス况ヤ不信ノ
宗教ヲ誰レ以テ固信ノ思想ヲ變セシメントス
願ル緩急先後ヲ計度セサル者ノ如シ夫レ 朝
廷ノ求ル所偏ニ文明ノ治教ニ在テ宗教ハ各其
歸嚮ニ任セシムルハ則宗教諸師皆已ニ
朝恩ノ至仁ニ感沐ス焉ニノ文明ノ治教ヲ翼賛
スルニ志ナカラシヤ必ス我弊ヲ除キ我教ヲ正
シ外明治ヲ助ケ内真理ヲ顯スニ至ラニ嗚呼其
レ誰レカ其宗ニ在テ其衰廢ヲ憂ヒサル者アラ

ン已ニ廢ヲ憂フ其興盛ヲ喜フ亦タ知ヘシ憂フ
ル代ハ必ス弊ヲ掃フニ奮発シ喜フ代ハ必ス實
ヲ拳ルニ勉勵ス是レ自愛修正ノ真情ニ由ツル
者未タ必スシモ之ヲ疑シテ私誇トス可カラズ
且ツ夫レ文運日ニ進ミ人智漸ク固ク我自ら正
サスンハ我レ自ら懲レンノミ是レ官ノ衰敗ニ
由ス人ノ抑揚ニ由ス興廢存亡爾ニ由テ爾ニ反
ル此時ニ當テ官ニ怨ル所ナツ民ニ咎ムル所ナ
シ唯自漸愧悔謝センノミ若シ抑揚褒貶專ラ
朝廷好惡ノ施設ニ出テ、興廢存亡遂ニ教法得

失ノ自弊ニ由ルニ非ズンハ其興ヤ興ノ實アリ
テ然ルニ非ズ其廢スルヤ廢スルノ失アリテ然
ルニ非ズ僅ニ功ヲ形迹ノ上ニ求メテ却テ實ヲ民
情ノ中ニ失ハシ是ヲ文明ノ政治トナサハ孰レ
カ文明ノ政治ナラザラン况ヤ今ノ官威ヲ挾テ
教ヲ布カ如キ終ニ自教ノ得失是非ヲ簡擇スル
ニ心ナシ矣ソ文化ノ通塞進退ヲ荷負スルノ念
慮アランヤ唯補任ヲ復リ安逸ヲ求テ機會ニ投
シテ不服ヲ誣ヒ時好ニ應シテ阿諛ヲ薦ム此ノ
如クニシテ教道アリト謂フトモ臣遂ニ之ヲ信

スルヲ得ヌ臣懇懇懇止ニ堪ヘス終ニ忌諱ヲ
犯シテ教部失弊ノ一二ヲ拳ケ更ニ之ヲ變更處
置スルノ愚策ヲ安シ之ヲ別紙ニ録シ併セ以テ
上聞ス狂愚妄リニ朝制ヲ非議ス派實ニ萬死
ニ當レリ伏シテ願クハ明賢公議臣區々ノ微
衷ヲ憐鑒セラレ公正ノ政上ニ行ハレ怨哀ノ聲
下ニ止ニ上下相倚テ真ノ文化ニ進趣スルヲ
得ハ斧鉞固ヨリ辭スル所ニ非ズ臣道ノ為メニ
身ヲ忘ル恐懼ノ至リニ堪エス願々謹言

明治七年五月

教部失體管見

天正十一年四月
任前郵寄贈

一 古分教職ノ撰キヤ必ス神侍ニ通ノ人ニ局シテ而シテ神道教職ハ独リ
 祠官ノニ非ス士民在官草莽ノ間カス皆神教篤志ノ者ハ之ヲ
 任ス神道教職ハ則テ然ラズ必ハ僧侶ニ局テ假令神道篤信ノ
 者アルモ彼レヲ之ヲ用エルトナリ許サズ若夫神道ノ者即治教ノ
 トナハ僧侶ト兼トモ布宜ク之ヲ被ラシムヘキ也何ヲ敢テ之ヲ別遇ス
 可ケレヤ然ルニ今判然分岐セシムル者ハ別ニ宗教ノ看ヲナスニ由ル
 事ノ然ハ宗教師ノ撰クテ法堂カノ如ク濫制ナリ可ケレヤ
 一 神侍已ニ臥宗ナル中ハ各自並立シテ相閑隔スヘカラサルハ固ヨリ也
 而シテ省省務メテ縣吏ヲシテ教職ノ弟子レノ參事已下大少属

區戸長等ヲ勸メ之ヲ神通效師トナシ且諸縣社寺楫ノ如キ
多クハ神通效師若クハ祠官並勢ノ人トナス是甲宗ヲ以テ乙宗
ヲ管シ乙宗ヲ統テ統テ所欲ヲ逞ス乙者豈宗效ヲ管理スノ體ナラ
シヤ乙宗效治效ノ狀ヲ混ス乙者壓制ス如クシテ而シテ朝恩ニ
感沐セシメントス乙其レ亦々難カラスマ

一 葦下ニ二大效院ヲ置キ府縣各一中效院ヲ設ケ其制皆四神ヲ
合祭スノ以テ是規トシ而シテ所在ノ神社伊キヲ以テ皆小效院トナ
ス其首尾調ス竹木相接ヲ濫制ト謂フ乙或人曰是猶一時
ノ施設ノ他日伊キヲシテ悉ク四神ヲ更メ祭ラント若然ラハ省
省伊キヲ用ユ乙非スレテ伊キヲ減スニ在リ苟モ備ス者豈之ニ從

フコヲ得ヘケレヤ

一 效院ノ神前ニ伊式ヲ禁テ頗ニ嚴ナリ而シテ其效導ニ至ラハ之
ニ説カレシムニ伊效ヲ以ラス乃テ一場同時ニテ念伊キヲ勸ノ題目ヲ説
キ高天原ヲ指顧シ極樂國ノ南西ニ説者已ニ左指右導シ聽者自
ラ東西走ス眩ス宗效固ヨリ自他混説ス如クノ可ラス治效豈
甲乙偏頗ス如クシテ可ナクヤ墳ニ效法ヲ玩弄シ民情ヲ解散セ
シハ侮ノ万国ニ取ルコトナキヲ得レヤ

一 下服ノ民ヲ強テ葬祭ヲ改轉セシムカ如キニ至ラハ縣官治民ノ緩急
ヲ察セテ義勢ノ際限ヲ辨セサルニ出ツト亟ニ要ス乙省昔本矣
ニ在ルニ由ル故ニ縣吏ノ以テ神通效職トナシ威權ヲ統テ之ヲ令ス

其施為ノ偏ナルヤ 佛葬ヲ神葬ニ改ムルハ可也 一度神葬ニ轉セ
者更ニ佛葬ニ復スルヲ許サストル者アリ 凡ソ神佛ニ徒ノ弊習
多キ間 帳配札符呪請祝等 疾篤シテ藥ヲ服セス業ニ荒ミテ
福ヲ祈ルニ至ル其害アリテ其益ナキ者 殆々皆是也 然ルニ今猶
措テ之ヲ尚ス 獨リ改葬處寺ニ汲々スルハ何クヤ 蓋固ニ民ノ服否
ト弊ノ有無トノ以テ之ヲ論スニ非ス 只專ラ神道一宗ヲ創セトス
ルニ在リ 豈官ノ民ニ對テテ表聲ト謂フコトヲ得ヤ

一 地方適宜ノ名トナシ 民心多岐ヲ口實トナシ 僧徒ノ奴辱ヲ禁
ムルヲ請ヒ 或ハ佛像ヲ摧却シ 佛寺ヲ廢セテ 諸ノ者アルモ 皆
之ヲ聽ルレ 即謂地方ノ適宜制ス可キラスト 嗚乎ソレニ 地方ノ

適宜ニ從フトシテ 敢テ其是非向ハスルハ 何ク必スシモ 官省ヲ須
レヤ 況ヤ 地方ノ諸ノ所ト 並北省有意ニ適ハサレハ 之ヲ制シテ 許サ
ル者アリ 彼ノ富山ノ一院ニ 公保セシメ 者今猶七十餘寺 縣令之ヲ
復セコトヲ 請フト 並北省之ヲ 新創ニ 擬ヒ 敢テ 許サス 其可否一
準ナラカシ 如何シヤ 夫 地方適宜ノ言ニ 民智未ダ進マズ 習俗一
朝ニ 變スル 能ハス 故ニ 緩急暫ク 便宜ニ 隨フノ 謂 欲若シ 不服ノ 証
ヒテ 民情ヲ 壓セハ 何地何事カ 行フ可カラサレシテ 之ヲ 適宜
政トスハ 四海一視 万姓同仁ノ 宗旨 將タ 安シカキヤ

一 近來僧侶 族譜ノ 令出シヨリ 真宗僧侶ノ 母ニ 原籍ナキ者ノ 如キ
一 般公正ノ 制ノ 是メ 區々 紛々ナラサレシルハ 固ヨリ 省ノ 主任ナ

一而之之ヲ地方ノ處分ニ任シテ毫モ關係ナキ者ノ如シ而地方處
分無情ヲ世襲ノ屋宅ヲ以テ他ノ公解官宅ト之ヲ同視シ之ヲ在
職中ノ假屋トナシ既ニ致仕シテハ其ニ居ルヲ得ヌトナスコト官俸ヲ
給スル者ニ行フ可クテ僧侶ハ四民一般ノ職業ニ同シカフニトモ朝者ニ
戻リテ況ヤ目下十教萬ノ僧侶ヲシテ一旦唐突驅逐シテ唐ニ去就ニ送ハシ
ルノミナラス時ニ飢餓ニ陥ラシメトス而ルニ省ノ之ヲ視ル猶秦楚ノ肥
瘠ニ於ケルカ如シ臣 甚メ之ヲ疑フ

一市分省新ニ令シテ奴導職本職ニ試補拜命セザル者ハ説教ヲ禁ムス
トス思フニ市分僧侶ノ補任ニヨリ者未メナカニニ過キス然ルニ今突
然其令出ル者ハ宗奴治奴ノ混ヒニ依ヒト魚北而兩ナカラ妨アリ若

奴職ノ名宗奴ニ屬セス 朝廷ハ奴ノ兼務トセハ其未メ宗奴ヲ減セ
サルノ間ハ假令兼職ヲ拜命セザルモ其本職宗奴ヲ説ク者何ノ之
ヲ禁スノ理アラヤ是レ一也曩ハ省令シテ所在ノ寺院皆小教院也
一寺任職ノ者皆奴導職也ト之ニ由ラ之ヲ考レハ奴職ノ名固ニ宗
奴ニ屬ス唯宗奴區外スルモ要三則ニ背カサルヲ軌トス而メ檢査補
任ハ朝廷其學識ヲ試ミ其等級ヲ定ル者ノミ假令檢査未メ済ム
等級未メ定ラサルモ一寺ニ任職シ奴務ニ從事ス宣之ヲ奴職ニ非ス
ト云ハレヤ然ルニ今俄然之ヲ奴職ニ非ストレ其説教ヲ禁ムルカ如キハ實
ニ宗奴ヲ廢スニ非スヤ是レ二也凡試補ノ言タル固ヨリ適任ノ實稱ニ
非ス若シ學未メ定ラサルモ試補タルニ於テ何カ有ラレ彼ノ神道補任

ノ輕易ナル尋常無事者昧ノ徒ニシテ毫モ取裁如何ヲ知ラサル者
スラ之ヲ本職トシ試補トセラシ独リ僧侶ニ至ラハ之ヲ重大ニシ容易
ニ任ス可キ者ニ非ストシ而ソノホメ任セラサレ者ノ説及ヲ禁ス果シ然
ラハ一寺任職ノ取替ニ因テ得ス夫レ何ヲ以テカ任職ノ取替トセ
レヤ是四也且近來僧侶少シノ省意ニ觸ル、一アレハ事ノ是非ヲ審カ
ニセス取職ヲ免ルヲ以テ恐嚇ユル者アリ而シテ寺院ニ任職タルハ依然ノ
リ亦何ノ事カ知ラサル也凡ソ僧侶ハ一般ノ職業ト同視スキコト
朝廷ニ出テ、顯赫ナリ其官員任免ノ例ニ異ナル亦言ヲ得タスノ
明カ也已ニ然レハ等級進退ハ 朝廷ノ褒貶スル所ナリモ取職ノ名實
ハモトヨリ宗及師弟ノ間ニ在リ師弟ノ契ヲ断セハ已ニナレ刑懲ノ律

ヲ犯ハ已ニナレ苟モ之ナクハ終身其取職タル疑ナシ然ルニ一寺ノ任職ハ
猶依然タラレノ只取職ヲノミ免除スル者ハ其何ノ謂ナリ知ラサル也是
五也又宗及治教ノ權義糊塗シテ施設條理ヲ失フト謂ハサルヲ得
ス

一神佛混淆各宗合糝取法ヲ玩弄シ民情ヲ乖披ス唯文化ニ寸効ナキ
ノミナラス將ニ正俗ニ大害アラトス故ニ真宗之レニ共同ス下ノ耻ケ即
チ分派ノ議ヲ起ツ諸宗ノ有志モ亦之ヲ請求スル者アリト魚尾省
之ヲ抑制ス独リ真宗之ヲ請テ止マサル殆ト半歲餘然レモ猶ホ
尤更右者以テ之ヲ抑止シ終ニホメ之ヲ聽サヌ夫會同分派ハ取
職各自ノ適宜ニ在リ固ヨリ官令ニ係ルニ非ス抑モ宗及區外アル

モ要三條教則ニ違ハサルヲ規トナス何ヲ敢テ令合ヲ強ニ可ケンヤ蓋
シ宗教治教ノ別判ヲナス強ラ之ヲ一體ナラシメトシ或ハ回體ノ名
トナレテ之ヲ評或ハ外教ヲ口實トナレテ之ヲ誦ス溜々タル教職統
ニ未ク世通人口ノ如何ノ際ニ乘シテ席威ヲ張リ古ヲ迎テ
狐尾ヲ舞し嗚呼宗教ノ墜依然トシテ存レ治教ノ効甚何ノ日カ
場ラシヤ

教部改正愚策

一文部省中教導課ヲ置キ教職補任進退等ヲ擔
任セシムルハ一シ
一教職ノ設ケ專ラ文明ニ誘導スルニ在リ蓋シ
智識ヲ磨勵シ人行ヲ善美ナラシムルヲ以テ
的トス故ニ能ク其職ニ堪ムル者アレハ士民
皆之ヲ撰任スルコトヲ得ヘシ何ソ必スシテ神
官僧侶ニ局スルコトヲセシ神官已ニ祭祀ノ職
アリ僧侶自ラ宗教ノ務ヲアリ假令學識其任
ニ堪ムル者ラ之ヲ撰擧スルモ神佛二道ノ各

ヲ以テ撰フ可カラス唯人道ヲ以テ之ヲ目シ
皆以テ兼務トナスヘシ凡ソ其本職アリテ而
ノ其撰ニ當ル者ハ通シテ皆兼職トナスヘシ
一教職ノ演説スル所專ラ文部普通ノ学ニ基キ
宇内公行ノ條理ヲ主トシ産業經濟修身齊家
スヘテ文化ヲ開導シ 朝旨ヲ領得セシムル
ヲ旨トス蓋シ少年子弟ハ学ニ就テ之ヲ得ヘ
シ今唯壯老婦女ノ学ニ就ク能ハサル者ヲ教
諭ス此際別ニ宗派異同ノ説ヲ混シラズ聽ヲ
分岐セシメサルヲ要ス且ツ妄リニ宗派ノ得

失ヲ覆賤シテ民心ヲ攪擾スルヲ禁スヘシ
一教職タル者既ニ文部普通ノ学ヲ以テ主トナ
ス乃ケ其補任ノ等級ハ其学ノ高下ヲ以テ之
ヲ定ムヘシ但シ政躰刑律内外上下ノ權義等
ヲ詳知シ言行篤實人ノ景慕ヲ催スニ足ルノ
人材ヲ以テ主撰トス学師育英ノ撰ト同シカ
ラサル所以テリ
一他ノ子弟ヲ勸メテ学ニ興起セシメ普通ノ小
中学ニ入ラシムルヲ要ス別ニ教職ノ学院ヲ
創シ子弟ヲ育スルヲ為ス可カラス若シ然

ラサレハ子弟ノ学ニ就ク者方嚮ニ途ヲ生シ
却テ其本旨ヲ失フニ至ラン

一教ノ学ト其歸ヲ同フシテ其遠ヲ異ニス蓋学
校ハ幼冲ヲ撫育シ教院ハ壯老ヲ勸諭ス其途
已ニ異ナルハ其校院亦判然タルヘシ

一教院ハ教職合議シテ人民ヲ教諭スル所以ノ
公場也之ヲ設置スル宜ク民費ヲ課率スヘシ
或ハ社寺ヲ假テ之ヲ用ユルカ如キ妨ナシト
雖^説氏治教諭ノ故ヲ以テ妄リニ社寺ノ權利ヲ
妨クルコトアル可カラス

一從來ノ大中教院皆四神ヲ合祭スルヲ以テ通
規トナス是レ神道者流ノ主張スル所ニシテ
巫僧物議ノ由テ生スル所以テ今ヤ之ヲ改
メサルヲ得ス蓋シ教院已ニ文部ノ所轄ニ屬
スルハ毫モ宗教ニ類スルノ制ヲ用ヒサル
ヲ美トナス况ヤ天下大小ノ寺院悉ク教院ト
為ス等ノ制ニ於テハ之ヲ改ムヘキハ固リ也
一神佛ニ徒ノ学校ノ如キハ其徒ノ私創スル所
ニシテ即チ宗教専門ノ学校也亦文部ノ大小
校ニ混ス可カラス

一神社ノ寺院ト教義體裁悉ク異ナルキハ則テ
ヲ管スル所亦異テラサルヲ得ス往時寺社奉
行ノ一午ニ之ヲ管セシハ神佛混淆シテ僧侶
ノ一身社寺ニ跨ル者アルニ由ル今日已ニ神
佛判然タリ而ルヲ猶ホ之ヲ一午ニ管セシハ
是レ抑揚偏黨ノ紛紜ヲ生スル所以到底治術
ニ便ナキ者ナリ

一社寺ヲ管スルハ且ク某省中ノ屬寮トナシ祠
官僧侶ノ進退廢立ヲ都督セシムヘシ蓋シ社
祠寮ハ務テ祠官ノ獎習ヲ矯メ寺院寮ハ專ラ

僧侶ノ陋俗ヲ正ス是ニ於テ乎至僧自テ其新
正ニ^禮禮リ氏庶終ニ疑惑ヲ解ク而各意望ニ喩
怒ナク亦義務ニ勇進スヘシ

一社祠寺院ノ二寮ハ至僧ノ進退黜陟ヲ管理ス
ト雖氏僧侶ノ人材ヲ撰ムニ至テ固ヨリ各宗
本山ノ權利ニシテ一宗回流ニ非ルヨリハ他
其得失ヲ論スルノ謂ナシ蓋シ世道ニ違順ス
ル所ハ衙門之ヲ賞罰シ其宗制ニ違順スル者
ハ本山ノ之ヲ黜陟スルニ任ス祠官ノホタ次
制アラサルハ亦宜適宜ノ制ヲ設ケシムヘシ

一地方官ノ社寺ヲ管スルモ亦タ必ス分課セシムヘシ迺永神職ヲシテ僧侶ヲ管セシムルカ如キ制度ノ宜ギヲ失フ者之ヲ廢セスンハアル可カラス

一各宗教師ニシテ治教ノ職務ヲ兼子サルモ其宗教ヲ説クニ至テハ毫モ妨ケテカラシムヘシ但シ宗教ノ所説必ス治教ニ妨テキヲ要ス是レ通メ教ノ用タル所以ナリ宗教ノ興廢存亡固ニ宗徒ノ勤惰ト教義ノ真妄トニ由ルハ也ノ漸ク闡明ニ趣ムク宗徒奚ソ舊弊ニ安

スルヲ得ンヤ既ニカヲ官ニ任ルノ念ヲ絶セハ必ス當ニ自ラ正スノ意ヲ生スヘシ是令セスシテ自化スルノ良制ナリ

一地方ノ官眞神道ヲ兼ヌル如キ弊裁ヲ失フモ亦甚シ苟モ官吏ニノ宗教ニ関シ威權ヲ狹テ之ヲ誣ルニ至テハ朝旨ヲ壅塞シ民情ヲ疎絶ス是レ宗教治教限界相犯シ制度相混スルノ弊害也今ヤ之ヲ更正セスンハアル可カラス

再議

414
A 4134
4

山口縣管轄周防國佐波郡德地

真宗妙誓寺住職臣寫地默雷誠惶再拜
尤院闕下ニ白ス臣嚮ニ教部改正ノ愚策ヲ建ツ
隘陋謫劣固ヨリ採擇ニ足ラサルヘシト雖凡愚
衷猶默止ニ堪エヌ敢テ忌諱ヲ犯シテ上奏シ
命ヲ待ツト此ニ十數日也然而臣頃日道路ノ言
ヲ聞リ曰ク教部ノ事夙ニ建議スル者アリ
廟議將ニ教部ヲ廢シ更ニ神祇ヲ開カントスト
臣始メ之ヲ聞キ以為神佛ノ混淆スル其害タル
甚シ 廟議洋々其レ當ニ然ルヘシト後復聞

ク神祇者才教導寮ヲ置キ以テ僧侶ヲ管理セシ
ムト臣之ヲ聞クト雖凡終ニ未タ之ヲ信スル能
ハス乃以為天 廟議將ニ教部ヲ廢シ更ニ神
祇ヲ開カントスルハ要神佛ソノ管ヲ判然タラ
シメ教義混亂シテ物議紛紜タルヲ整頓スルニ
在リ豈復僧侶ヲシテ之ニ屬セシムルヲ為シ
ヤト蓋夫僧侶ハ一般職分ニ同シトスルハ既ニ
朝廷ノ令スル所也一般ノ職分官豈之ヲ尤右ス
可ケンヤ唯其國憲民法ニ背カシメサルヲ要ス
ル而已且ツ祠官ノ僧侶ニ於ル已ニ其職分タル

教義異ナル片ハ之ヲ管理スル所ノ同クスヘカ
ラサルハ無論ナリ故ニ其神祇ニ於ル或ハ官或
ハ省寮毫モ臣ノ議スル所ニ非スト雖凡モシ僧
侶ヲシテ之ニ屬セシムルニ至テハ混亂紛紜其
弊彼ノ教院ノ濫制ニ陪隨スル更ニ甚シカラシ
猶ホ溺ヲ避テ火ニ投スルカ如キ而已蓋僧侶已
ニ一般職分ニ同シトスル片ハ其職分タル宗教
ハ民ノ歸嚮ニ任セ思想ノ自由ニ從ハシメ其職
長タル本山本寺ノ進止スルニ任セ興廢存亡其
後ノ勤惰ニ從ハシムヘシ而シテ其之ヲ管理ス

ルハ人民一般之ヲ内務ニ属シ其後ヲシテ所詔
國憲民法ヲ遵守セシムルヲ當トナスヘシ臣敢
テ道路ノ言ヲ信スルニ非スト雖此事モシ實ニ
係ラハ再ヒ 廟議ヲ煩ステアラント恐ル遂
ニ黙止スルニ忍ビス復忌諱ヲ犯シテ敢テ狂妄
ヲ上奏ス情迫テ辭盛ル喘々顛々ノ至ニ堪ヘス

明治七年六月十日

臣 篤地 黙雷

謹上

尙院閣下

建議要目

- 一 僧侶ハ一般職分ニ同シケレハ國憲民法ヲ犯
サル片ハ官ノ左右スヘキニ非ル事
- 一 祠官僧侶少シク關係スル所アルモ其奉事ス
ル所異ナル片ハ其職分已ニ判然タリ故ニ之
ヲ管轄スル所モ別アルヘキ事
- 一 宗教ハ僧侶ノ職分ナレハ其職長本山本寺ノ
左右スルニ任スヘキ事
- 一 宗教ハ本山ノ左右スルニ任スモ寺院ノ事々
ル僧侶ノ人タル皆内務ノ管知スヘキ所ニシ

一 予人民一般ノ通義ヲ以テ之ヲ治スヘキ事
一 教職ノ名實全ク宗教ニ屬スル者ニシテ其名
稱ハ之ヲ同クスルモ其教義ニ於テハ全ク異
ナルカ故ニ今後官モシ自ラ之ヲ管セントセ
ハ宜ク神佛ニ偏ナキ者ヲ以テ之ヲ統フヘキ
事

以上

寫地黙雷

